

対象 小・中・高などの教育機関

個別校助成

助成対象 ▶ 小学校、中学校、高等学校等において児童生徒が主体的に取り組む科学への関心を高める授業やクラブ活動等

助成金額 ▶ 最大**30万円**×**1年間**

応募資格 ▶ 上記の企画と実施に取り組む小学校、中学校、高等学校等。
※原則、大学や教育センターからの応募はできません。

複数校連携助成

助成対象 ▶ 小学校、中学校、高等学校等の複数校が連携して、児童生徒が主体的に共同で実施する科学への関心を高める2年間の活動

助成金額 ▶ 最大**100万円**×**2年間** (ただし、1年ごとに継続審査をおこないます。)

応募資格 ▶ 上記の活動の企画・運営を行う代表校。
※原則、大学や教育センターからの応募はできません。

教員支援助成

助成対象 ▶ 児童生徒の理科の力を向上させるための指導法改善や教材開発などに意欲的に取り組む教員の3年間の継続的な活動

助成金額 ▶ 最大**50万円**×**3年間** (ただし、1年ごとに継続審査をおこないます。2年目から3年目への継続にあたっては、財団関係者が活動視察をおこなった上で決定します。)

応募資格 ▶ 上記の活動の企画・運営を行う代表校または、機関、コンソーシアムの代表。
※原則、地方自治体からの応募はできません。教育センターからの応募は可能です。
※教員の自主的な研究会は、組織体として整備され、教育委員会が承認または認知した組織に限ります。
※単一校ではなく、複数校の教員が連携・協働して取り組む活動を対象とします。

- ◎本助成対象は、学校、教育機関であり、教員個人を対象としたものではありません。
- ◎特別支援学校等も対象です。
- ◎高等専門学校は、1～3年生の活動が対象となります。
- ◎「個別校助成」、「複数校連携助成」は児童生徒が主役となる取組を対象とします。教員が取り組む授業研究や教材開発は「教員支援助成」に応募してください。

2027(令和9)年度助成の
募集期間 | 2026(令和8)年
10.1^木 - 11.30^月

助成採否のご連絡は3月上旬に致します

応募方法

当財団ホームページにて、募集要項、FAQを確認の上、ウェブ申請してください。
トップページの「マイページ」より基本情報登録(ID取得)を行ってください。

過去の助成数

2026(令和8)年度	【個別校】 74件	【複数校連携】 27件	【教員支援】 17件
2025(令和7)年度	【個別校】 74件	【複数校連携】 29件	【教員支援】 21件
2024(令和6)年度	【個別校】 73件	【複数校連携】 32件	【教員支援】 20件

科

学

教

育

振

興

助

成

子どもたちの論理的思考力を養い、創造性を育むことを目的に、
小中高校における科学教育の振興に資する取組を助成します。

お問い合わせ先



公益財団法人 **中谷財団**

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号
国際健康開発センタービル(IHDビル)5階 神戸分室 科学教育振興助成担当
<https://www.nakatani-foundation.jp/>
お問い合わせは、上記HPの「お問い合わせフォーム」よりお願いします。



中谷財団

検索

後援



文部科学省

個別校助成

埼玉県立特別支援学校 羽生ふじ高等学園（埼玉県）

特別支援学校における 多様な野菜栽培管理とフードロスへの挑戦！

農業学習の中で規格外野菜が廃棄されている現状に疑問を抱き食品ロス削減に取り組んだ。食品ロスの現状と課題について学習した後、校内の“もったいない”を調べ、活用方法を意見交換した結果、アイスの加工・販売を行うことにした。イチゴ・ウモロコシ・アズキを栽培し、アイス作りを通して食品科学を体験的に学習、またラベル選定や価格設定、販売にも挑戦し、規格外野菜に新たな価値を見いだした。栽培から販売まで一貫して経験し、食品ロスやSDGsを自分事として理解するとともに、学びが地域に届く体験を通して、働く意欲や自己有用感を高め、社会の一員として行動する力を育んだ。



坂井市立雄島小学校（福井県）

地元の「天池」を守ろう！雄島っ子環境保全活動隊

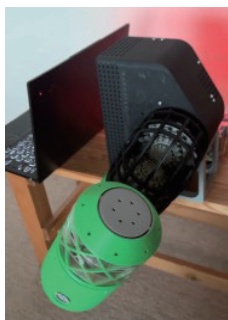
校区内の「天池」には絶滅危惧種に指定されている水生昆虫や両生類が生息しているが、数年前からの特定外来生物アメリカザリガニの増加で生態系が変容した現状を受け、自分たちにもできることがあると考え環境保全活動に挑戦した。自然保護センターや「天池を守る会」から池の変容や生き物の生態を学び、自作トラップによる捕獲、ザリガニ釣り・トリイベントの企画、水草移植など多様な活動を実施、環境問題には継続的かつ多面的な関わりが必要であることや地域の保全活動の価値や苦勞を理解した。児童がその担い手の一人であるという意識を高めた取り組みとなった。



長野県諏訪清陵高等学校（長野県）

災害救助と林業支援を目指した多目的ロボットの開発

災害救助と林業支援の両立を目指して、高い走破性、効率的な移動能力、高い作業性を備えた多目的ロボットの開発に取り組んだ。腕・車輪・脚の機能を統合した機構を設計し、3Dプリンタによる試作と改良を繰り返し、ガタやバックラッシュ、トルク不足といった課題に向き合いつつ、回転のなめらかさや精度の改善を図った。制御回路やプログラムも自作し、動作試験では意図した通りに制御できることを確認した。今後は新たなアーム製作による軽量化や6脚ロボット化を目指す。



広島県立西条農業高等学校（広島県）

養コオロギ廃棄物のフンと紙卵トレーで土壌改良材を開発 ～フン中のセルロース分解細菌等の有用細菌に着目して～

循環型バイオエコノミーの実現を目指し、コオロギ飼育で生じるフンと紙卵トレーを混ぜた土壌改良材の開発に取り組んだ。赤玉土と米ぬかを加えて発酵させた改良材でコマツナを栽培したところ、腐葉土より成長が促進され病害虫の被害も少なかったことから、フンに含まれる細菌に注目し、細菌が植物の生長促進や病害抑制に関わることを実験で確かめた。土壌改良材の開発と植物栽培、細菌の分析を通して、未利用資源に新たな価値を見だし、科学的根拠に基づいて環境負荷を減らす可能性を実感したほか、探究を重ねる中で、農業とバイオの力で持続可能な社会に貢献できることに気づき、課題解決に主体的に向き合う姿勢を育んだ。

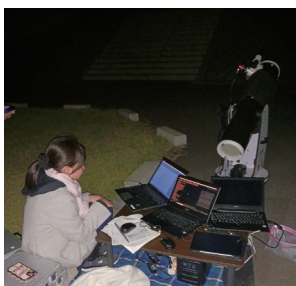


複数校連携助成

宮城県立宮崎北高等学校（宮城県）

星食現象の国際共同観測による天文学と教育の連携

国内4校で星食観測に挑んだ1年目、生徒たちは機材操作や時刻補正など実践の内容を学び、高校生だけで対象星を導入できる技術を身に付けた。2年目はタイ・カセサート大学附属高校を加え、専門家や天文台とも連携した国際共同観測へ発展。オンライン交流や現地指導を通して学びを深め、両国で継続的に観測を実施した。宮崎北高校は(471)Papagenaの減光を捉え、科学的に報告可能なデータ取得に到達。生徒主体の活動が国際的な科学教育ネットワークとして広がった。

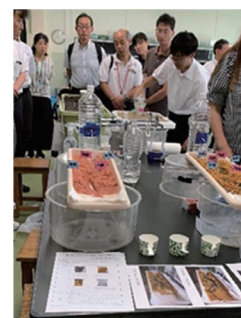


教員支援助成

栃木県小学校教育研究会宇都宮支部理科支部部会（栃木県）

「みる つなげる 考える 未来をそうぞうする理科学習」の実現を目指す教師の研修の充実

理科部会では、研究部、企画部、教材調査部、理科情報部が活発に連携しながら、理科授業改善に向けて研修の充実を図ってきた。教材調査部はアンケート結果を基に教材の調査・研究を進め、夏季研修会では実物に触れながら学べる教材紹介を行った。研究部は次年度の理科指導法研修会に向けて発表校と協力し授業づくりを支援した。理科情報部はGoogle Classroomを活用し、授業の工夫やこつをオンラインで共有した。今後も理科部員の声を生かし、各部の活動を充実させ、よりよい理科学習の実現を目指して活動を続けていく。



大学・高専を対象とした5年間の
次世代理系人材育成プログラム助成も募集しています。

詳しくはHPをご覧ください。